



すべてのジャンルに創造の場を開いた、アート・プラットフォーム

OPEN SITE は、2016 年から開始したトーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)の企画公募プログラムです。あらゆる表現活動が集まるプラットフォームの構築を目指し、展覧会やパフォーマンス、ワークショップなど、多岐にわたる企画を開催しています。

8 回目となる 2023 年度は、215 企画の応募の中から展示部門 4 企画、パフォーマンス部門 3 企画、dot 部門 2 企画を選出しました。さらに TOKAS 推奨プログラムを加えた合計 10 企画を実施します。

これまでにない表現を探求し、創造の場を作り上げていく意欲に満ちた企画に、ぜひご期待ください。

■ 開催概要

プログラム名： OPEN SITE 8

実施期間： Part 1 2023 年 11 月 25 日（土） – 2023 年 12 月 24 日（日）

Part 2 2024 年 1 月 13 日（土） – 2024 年 2 月 11 日（日）

会場： トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷 2-4-16）

休館日： 月曜日

入場料： 無料 ※パフォーマンスは有料

主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

ウェブサイト： www.tokyoartsandspace.jp/

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館) 広報担当: 舟橋、市川

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 関連イベント

■ Part 1 オープニング・トーク ※日英逐次通訳あり

日時：2023年11月25日（土）16:00 – 17:30

出演：佐藤瞭太郎、Arts Collective（アンドレ・チャン、チョン・チンイン）、岩間香純
岸本佳子（BUoY 芸術監督）、小林晴夫（blanClass ディレクター）

■ Part 2 オープニング・トーク

日時：2024年1月13日（土）16:00 – 17:30

出演：野村 在、鈴木英倫子

畠中 実（NTT インターコミュニケーション・センター[ICC] 主任学芸員）

近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター）

■ 2023年10月25日（水）よりチケット予約受付開始！

パフォーマンス公演および一部のイベントは予約制です。

TOKAS ウェブサイトの各企画ページから予約フォーム／予約専用サイトにアクセスし、必要事項を入力の上お申し込みください。詳細は後日チラシおよびTOKAS ウェブサイトで発表します。

※各公演とも定員になり次第、または公演の2時間前をもって予約受付を終了します。

■ 実施企画／広報用画像 ※この他にも広報用画像をご用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

【Part 1】2023年11月25日（土） – 12月24日（日）11:00 – 19:00／無料

展示

佐藤瞭太郎 SATO Ryotaro

「変形する無機物」

「アセット」と呼ばれる、インターネット上で取引される素材データたちがいる。彼らはデジタルプロダクションにおける素材であり、俳優であり、労働者である。本展では不条理文学を参照しながら、イメージの生産と流通の中で変形する「アセット」を撮影する。不条理文学が変形する身体を思考したように、ありえた存在としての「アセット」を通じて現代における「変形譚」を立ち上げる。



1. 《Unknown Friends》2023

関連イベント

日時未定 トーク ※詳細はウェブサイトをご確認ください。

プロフィール

1999年生まれ。神奈川県を拠点に活動。インターネット上で取引されているデータを収集し、文学や映画的方法論によってそれらを編集することで、今日の流通とその中で変形する存在を捉える作品を制作している。

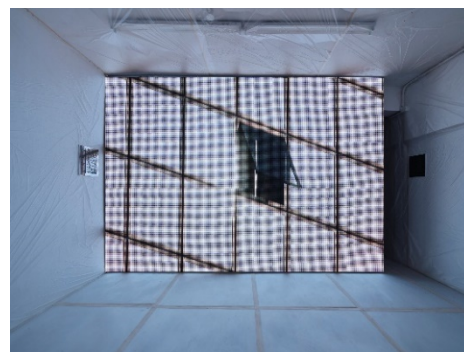
協力 東京藝術大学大学院映像研究科

展示

Arts Collective

「影を残して、時は去る」

現代アートの分野における映像は、映画を従来の映画館からギャラリーや美術館に持ち込み、映画を拡張させた。アーティストたちは、リアルでなければならないという制約から解放され、作品の中でいかにして時間の流れ方を変えるか、さまざまな手段を駆使した。この新たな自由は、アート作品の制作において、空間を観察し、表現するための新しく異なるアプローチを可能にした。本展では、アジアのアーティストたちによる「時間」を媒介とした空間や場所への観察を示す映像作品群を、アジア各地のさまざまな場所に焦点を当てながら紹介する。



2. マーク・チュン《デッドエンド #1》2021
撮影：South Ho

キュレーター アンドレ・チャン、チョン・チンイン

アーティスト チャン・ティントン、マーク・チュン、コウ・シントン、パン・イーシュアン、ティン・ミンウェイ

関連イベント

12/23 (土) 時間未定 キュレーターズ・ツアー ※詳細はウェブサイトをご確認ください。

プロフィール

2018年にキュレーターのアンドレ・チャン、チョン・チンインにより結成。香港を拠点に活動。キュレーションプラットフォームである Arts Collective は、現代アートとその他の文化的影響を交差させた実践を目指す。研究、ネットワーキング、コラボレーションを通じて、香港内外での異分野間の対話に相乗効果を与えながら、交流を促進することに取り組んでいる。

パフォーマンス

ルサンチカ RESSENCHKA

「SO LONG GOODBYE」

12月8日(金) 19:00 -

12月9日(土) 13:00 - / 17:00 -

12月10日(日) 14:00 -

事前予約 ¥3,000・当日券 ¥3,500/予約制

ルサンチカが、これまで不特定多数に「仕事」についてインタビューし制作した演劇作品のリクリエーション。斉藤綾子を出演に招き、彼女の持つ肉体を頼りに「存在」と向き合っていく。ダンサーである彼女は踊ることが働くことと繋がっている。どこからが公のための踊りで、どこからが自分のための踊りなのか。そもそもそのような境界は存在しているのか。ダンサーの彼女と対話を用いて彼女と彼女自身と向き合っていく。

出演 斉藤綾子

プロフィール

河井朗が主宰・演出する実演芸術を制作するカンパニー。近年は年齢職業問わずインタビューを継続的に行い、それをカラージュしたものをテキストとして扱い上演を行う。その他にも既成戯曲、小説などのテキストを使用して現代と過去に存在するモラルと、取材した当事者たちの真実と事実を織り交ぜ、実際にある現実を再構築することを目指す。



3. 『SO LONG GOODBYE』2020 撮影：中谷利明

dot

岩間香純 Kasumi IWAMA

「Solidaridad Feminista: エクアドルと日本からみる アート・アクティビズムの可能性」

展示：11月25日（土）－11月29日（水）11:00－19:00／無料

アーティスト：ディアナ・ガルデネイラ、アンドレア・サンブラノ＝ロハス、岩間香純、
莫連会

ワークショップ：11月30日（木）14:00－17:00／無料／予約制

講師：岩間香純 ゲスト：ディアナ・ガルデネイラ、アンドレア・サンブラノ＝ロハス

シンポジウム：12月2日（土）14:00－17:00／無料／予約制

登壇者：岩間香純、ディアナ・ガルデネイラ、アンドレア・サンブラノ＝ロハス、
フェミニスト手芸グループ山姥、Our Clothesline with Mónica Mayer



4. ディアナ・ガルデネイラ
《No me toques (NMTKS)》2023

ラテンアメリカと日本のフェミニズムを繋ぎ、アートを通じて双方の歴史、文化、哲学にもとづく多様な視点やノウハウを持ち寄り、新しい価値観や経験を共有し合いながら、アートをとおしてジェンダー暴力に抵抗する方法について対話する場をつくる。

プロフィール

エクアドル在住。日米の間で育ったミレニアル世代の視点で社会問題を捉え、コンセプチュアル・アートで表現するアーティスト。フェミニズム運動を中心にアート・アクティビズムにも関わっている。

////////////////////

【Part 2】2024年1月13日（土）－2月11日（日）11:00－19:00／無料

展示

野村 在 NOMURA Zai

「Can't Remember I Forgot You － 忘れたことすら、覚えていない」

AIによって今後人類の生存データは永遠にリサイクルされ続け、死後もデータが生き続けることになった。そして私たちは忘れたことも、忘れられたことも、思い出せなくなっていく。写真に刻まれた記憶を彫刻的に立ち上げながら、失われた記憶を実体として表出させ、記憶と記録の境界線を曖昧にすると共に、現代における存在、記憶、死の在り方を問う。



5. 《Soul Reclaim Device ("A portrait of my departed sister")》2018

関連イベント

2/4（日）18:00－19:00 トーク ゲスト：堀江敏幸

プロフィール

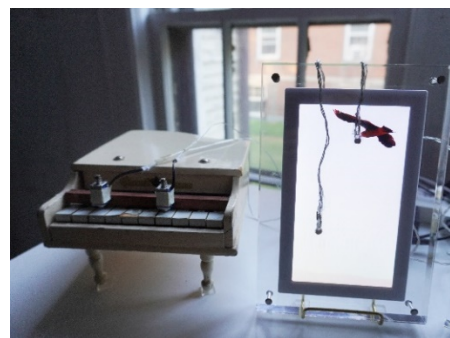
1979年生まれ。神戸とニューヨークを拠点に活動。地震や家族の死を契機に、肉体を含む物質の消滅を探索することを制作の動機とし、多様なメディアを用いて存在の本質を暴露することを試みる。

展示

鈴木英倫子 SUZUKI Elico

「移動について」

2022 年後半から 2023 年前半にかけて行われた 5 ヶ国への滞在与、それに伴うリサーチをもとに、ポスト・コロナ時代における移動の自由について考察する。ニューヨーク湾の検疫島や、台湾道教における日本人神廟を巡る幽霊譚、各国の渡り鳥の軌跡をベースに、古典的な通信技術を転用しながら不可視の存在を呼び起こす。



6. 《鳥には国境はない》2023
ハーベストワークス、ガバナーズ島、ニューヨーク

関連イベント

1/28 (日) 時間未定 トーク ※詳細はウェブサイトをご確認ください。

プロフィール

東京都を拠点に活動。道具や楽器のインタラクションと身体性とのずれ、通信技術のレイテンシーが生む物語性への興味から、楽器や自作装置を組み合わせた、回りくどく落ち着きのない感じの演奏や展示を行う。「すずえり」の名前で即興演奏家としても活動を行っている。

協力 Harvestworks、Infinite Objects、AIR Taipei、Asian Cultural Council、Eric Mattson & Crown Shyness

パフォーマンス

YANAI Shino

「I Hear Your Breath」

1月16日(火) 18:00 – (定員1名) ¥4,000

1月19日(金) 19:00 – (定員1名) ¥4,000

1月20日(土) 16:00 – ¥1,500

1月21日(日) 14:00 – ¥1,500

予約制



7. 『Well Temperament』2021
撮影：川田 淳、青山真也

歴史的な事象に関連する道（近年はロックダウン中のロンドン市内のリージェンツ運河沿いなど）を探し、その道筋をランニングしながらフィールド・レコーディングした音源を使って、さまざまな時間と記憶を重ねていく即興パフォーマンス。また地図上でスコアを作り、地図とテリトリーの関係パフォーマンスをとおして考える。

出演 YANAI Shino 他

関連イベント

1/20 (土) アフター・トーク ゲスト：榊田倫広（東京国立近代美術館主任研究員）

1/21 (日) アフター・トーク ゲスト：未定 ※詳細はウェブサイトをご確認ください。

プロフィール

ロンドンを拠点に活動。クラシックピアノを学んでいたが、現代美術に転向し、パフォーマンスを主とした作品を発表している。近年は、痕跡と覆い隠された記憶に関心を持ち、フィールド・レコーディングなどによって探求している。

パフォーマンス

花形 槇 HANAGATA Shin

「A Garden of Prosthesis」

2月2日（金）19:00 –

2月3日（土）17:00 –

2月4日（日）15:00 –

¥3,000／予約制



8. 『A Garden of Prosthesis』 EASTEAST_TOKYO、2023

人間を中心とした世界を反転させ、他物のためにある人間の肉体についての可能性を考えるパフォーマンス。この《庭》では、人工物、自然物、肉体が等価に存在し、《庭師》たちによってそれぞれが互いに《接木》され、侵犯し合う。それぞれのオブジェクトは、互いが互いを義肢とし、やがて人間さえも植物や機械の義肢となることで、オブジェクト同士の関係は氾濫し、この人間社会において定義づけられた機能や存在意義を逸脱した可能性のキメラとして癒着する。そして、それらが矛盾しながら調整しあうことで共存し、その《庭》は造られ続ける。

出演 花形 槇 他

プロフィール

1995年東京都生まれ。京都府を拠点に活動。テクノロジカルに加速する資本主義社会において変容する、自一他の境界、人間—非人間の境界への関心のもと、「私」でなくなっていく、「人間」でなくなっていく肉体についての実践を行う。

dot

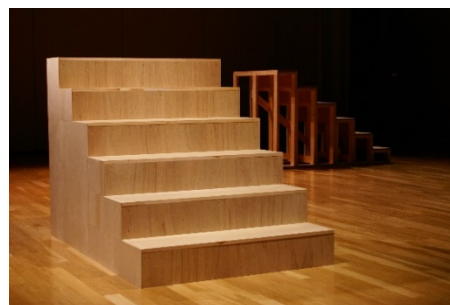
6steps

「6steps を置いてみる –TOKAS 本郷編–」

2月7日（水）–2月11日（日）

11:00 – 19:00／無料

TOKAS に置かれた 6steps (6 段の階段／振付／舞台装置) と、6steps を踊るための振付書／指示書により、来場者は自由にそれを上り下りしながらダンスを探ることができる。また会場内には、6steps のコンセプトと振付を担当する木村玲奈が、ひとりで、時々誰かと踊っているかもしれない。来場者は実際に体験することも、少し距離をとって眺めることもできる。



9. 『6steps』 撮影：Ume Koizumi

関連イベント ※予約制

2/9（金）17:00 – 19:00 トーク ゲスト：長島 確（ドラマトウルク）

2/10（土）17:00 – 19:00 トーク ゲスト：平田栄一朗（演劇学・ドイツ演劇研究、慶應義塾大学文学部教授）

2/11（日）14:00 – 16:00 トーク ゲスト：神村 恵（振付家・ダンサー）

プロフィール

6steps は、6 段の階段を振付の一部として使用するダンス作品であり、舞台芸術と社会を繋ぐプラットフォームとしての機能も模索している。振付家、ダンサー、WEB エンジニア、観察者、美術家、舞台制作者が共に活動中。

協力 ST スポット、有楽町アートアーバニズム YAU、一般社団法人ベンチ

TOKAS 推奨プログラム

ツァン・ツイシャン TSANG Tsui-Shan

「Chroma 11—無舞之間—」

12月14日（木）－12月24日（日）

11:00－19:00／無料

※VR体験の詳細は、後日ウェブサイトでお知らせします。

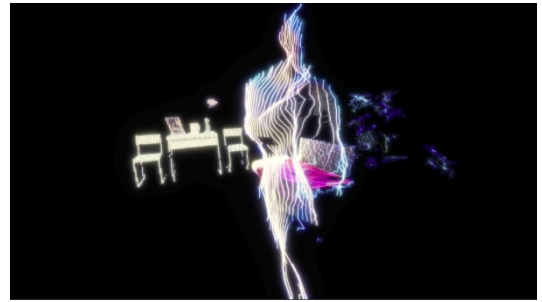
香港の映像作家ツァン・ツイシャンと香港アーツセンターifvaとの協働によるVRプロジェクト。映像、インスタレーション、ダンスパフォーマンスと仮想空間を融合し、2人のダンサー、ウォン・ティエンパオ（イックス）とケク・アーホク（アーロン）の愛の物語を描く。生と死、ホモセクシャリティ、LGBTQIA+、病と孤独、といった哲学的かつ現実的なテーマを提示しながら、現実と仮想の境界や、アートとテクノロジーの関係についても考察する。

関連イベント

日時未定 ウォン・ティエンパオ（イックス）によるパフォーマンス ※詳細はウェブサイトをご確認ください。

プロフィール

1978年生まれ。香港を拠点に活動。自身が手掛けたダンスドキュメンタリー『Ward 11』で第25回ifva銀賞を受賞。同作に出演した2人のダンサー、マレーシア出身のウォン・ティエンパオ（イックス）と、彼の長年のパートナーでシンガポール出身のケク・アーホク（アーロン）の愛の物語を本作『Chroma 11—無舞之間—』で描いた。しかし2019年にアーロンが逝去し、その後も生涯を越えて続くイックスの変わらぬ深い愛に触発され、ツァンは本作でVRによる没入型ストーリーテリングへの移行を試みた。テクノロジーを生者と死者の世界の架け橋として使い、2人の愛の物語を異なる次元で語り直すことを目指す。

10. 《Chroma 11—無舞之間—》2022
VR内の体験イメージ

「OPEN SITE 8」
広報用画像申込書

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

Fax 番号: **03-5245-1154**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ウェブバナー

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送(月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1~2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

<お問い合わせ> ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp